

No. 2

1984

5月1日発行

萩の郷

発行者
下市田区

発行責任者
林直輔

印刷者
飯田共同印刷(株)



〔写真説明〕

下市田河原に、初めて飛来した白鳥たち
(昭和五十九年二月九日撮影)

飛んで来た白鳥

福島 光三郎

吹雪く日も
白鳥の群は
河原の稲田の刈株のあとに
住みついている

ここ

南信濃に

初めてその姿を現わした

白鳥の

冬の光を浴びた

優美な姿態

はるばると ソ連領

シベリヤから飛んで来た

平和の使者だ

なぜ

この下市田の河原を選び

住みついたものか

北の地方に

大雪があったためか

近くに天竜川が流れ

ふちがあり

河原にイタリアングラスが

うす青く

餌つけをする人が

いるからか

白鳥の歩いた

砂地に残る

大人の

てのひらほどある足跡

飛びたとうとするときの
お互いの合図と
力強い羽ばたき
拡げた翼の二メートル近い
白鳥の大きさ

青空を

悠然と羽搏き飛んでゆく姿

やがて滑空に移って

水面に下りる

群の優雅さ

水明りのする

川のよどみに浮かんで

水浴をし

羽づくろいをする白鳥たち

やがて眠りに入ろうとする

水鳥にみる

それぞれの生態、習性

薄暮の自然の中で

新しくやって来た

白鳥たちが

演出する

新しい冬の風景

水面に美しい点景となった

白鳥たちの夜を迎える

その姿

害敵に対する周到な習性の

白鳥たちのうえに

夜のとばりが下りてくる

年度の始めにあたって

区 長 林 直 輔

昭和五十八年度の区政も健全財政堅持の線にそって事業を進めて参りましたが重点施策である道路整備も継続事業である大洞線外七線が新設又は改良され、一応の成果をあげ、ご覧頂く様な決算の締めくりが出来ました。区民皆様のご協力に感謝申し上げます。

の計画も考えなければなりません。色々と論議されました基金の積立も、皆様のご賛同を得て、四月から始まりました。明るい、住みよい、また対話のある下市田区を育てるためにも、皆様の尚一層のご理解ご協力をくださる様お願い致します。

今後共、皆様の御指導、御鞭撻を御願ひ申し上げます。

代議員会を代表して

会 長 三 島 勤

予算決算共、大まかな数字だけを載せましたが、細かいところは常会へ廻る予算・決算書をご覧ください。五十九年度も、町の方針を区の方針としてコミュニティ

代議員会発足以来、区当局の御指導と、皆様方の御支援に依り、大過なく二年目の春を迎えることができました。

区の決議機関という重大な責務遂行の為に、一致協力し、任期まで最大限の努力をしようと、各自申し合わせている次第であります。



公民館主事の

田 戸 純 市 です

どうぞよろしく。



会 長 を 中 心 に

副 会 長 小 林 恵

会長を中心に代議員の皆様と、あたえられた任務を誠意をもって遂行してまいりますので、よろしくお願ひ致します。

代 議 員 紹 介

順不同・敬称略

会 長
三 島 勤副 会 長
小 林 恵

原 春 男



光 沢 義 寛



中 下 久 登



坂 牧 久 男



福 島 幸 雄



福 沢 儀 造



加 藤 忠 彦



原 次 郎



鈴 木 安 明



小 川 三 吉



原 田 勝 雄



唐 沢 武 文



齋 寛 夫

クラブ紹介 (2)

詩吟クラブ

クラブは第五教場といいま

昭和四十九年十一月、私達詩吟クラブが発足しました。規約第三条に、この会は詩吟を通じて心身を鍛練し、人格陶冶し、品性の向上を図り、会員相互の親睦を深め、広く岳風流を普及して、地域社会の文化の向上に寄与することを目的とするという事が、うたわれています。あまり堅く考えない様に、趣味の一環として楽しく吟ずればよいかと思ひます。

先生は豊丘村の西島信雄先生であります。毎週一回金曜日に練習をします。クラブ員は当初十八人でしたが、だんだん減って現在九人となって、年間五十回位の勉強をしています。会費は毎月千円づつ集めて、本部の負担金、支部負担金、先生の交通費、新年会、御花見会、忘年会費等に当てます。組織は長野県本部、飯田下伊那岳風会、町村に支部、高森岳風会の順に構成されています。高森町内に第九教場があり、私達の

種々の催があり盛会であります。私達クラブ員は五十七年の八月、奥伝に昇格して、本年八月、七段に挑戦することになっています。詩吟も何年か勉強を重ねて参りますと、大勢の人の前でも臆せず詩吟をする事が出来る様になってきます。詩の意味を解して楽しむのもよいことだと思ひます。腹から声を出す事は、健康のためにもよいし、また老化の予防にもなると思ひます。詩吟の愛好者がありますしたら、歓迎いたします。

(伊奈川喜代治)



下市田二区民踊クラブ

私達のクラブは、名前を「やよい会」と申しまして、発足は五年位前になります。その後、メンバーも入れ変わり、現在は十三名が発足当初より御指導いただいております。森谷先生の下に、毎月第一と第三の月曜日に、二区生活改善センターで練習をしています。習う数は、一年に難かしいものを一つか二つ位教える

下市田公民館予算・決算書

<59年度予算>

歳入		(単位=千円)	
科	目	予	算 額
繰	入 金		1,780
	計		1,780

歳出

目	予算額	節 分		金 額
		区	分	
1.総務費	750	1.報酬手当		560
		2.需要費		190
2.教養部費	400	1.行要費		330
		2.学級補助		70
		1.行事費		379
3.体育部費	445	2.備品費		48
		3.消耗品費		18
4.視聴覚部費	95	1.視聴覚部費		95
		1.図書購入費		63
5.図書部費	90	2.消耗品費		3
		3.会議費		24
合 計	1,780			

<58年度決算>

科 目		決算額		(単位=円)	
1.繰越金	443	1.総務費	776,946		
2.繰入金	1,600,000	2.教養部費	341,042		
3.諸収入	21,147	3.体育部費	373,660		
		4.図書部費	94,890		
		5.視聴覚部費	34,544		
合 計	1,621,590	合 計	1,621,082		

収入総額 1,621,590円 残額 508円
支出総額 1,621,082円

下市田区一般会計予算・決算書

歳入 <59年度予算> 歳出 (単位=千円)

区 分	予算額	区 分	予算額
1.区 費	8,500	1.総務費	6,569
2.繰入金	0	2.厚生費	823
3.町支出金	2,700	3.区有地費	1,030
4.財産収入	3,600	4.土木費	4,559
5.寄付金	1,200	5.水利費	1,565
6.繰越金	1,000	6.消防費	474
7.諸収入	800	7.公民館費	1,780
		8.予備費	1,000
合 計	17,800	合 計	17,800

<58年度決算>

歳入 歳出 (単位=円)

区 分	決算額	区 分	決算額
1.協議費	8,517,500	1.総務費	7,378,631
2.繰入金	-	2.厚生費	514,423
3.町支出金	3,801,671	3.共有地費	841,800
4.財産収入	3,641,110	4.土木費	4,697,036
5.寄付金	581,150	5.水利費	1,256,370
6.繰越金	1,418,917	6.消防費	572,381
7.諸収入	1,055,316	7.公民館費	1,600,000
		8.予備費	0
合 計	19,015,664	合 計	16,860,641

歳入総額 19,015,664円
歳出総額 16,860,641円
残 高 2,155,023円

全員休む事無く、出席率は大変良好です。苦勞の中にも、歌に合わせて皆で踊る事は楽しく、練習の後は体もすっきりとします。皆和気藹々と楽しく、グループのまとまりも大変良好です。は町民運動会にも参加しま

した。仕事をしても、全身を動かす事の少ない現代の生活ですので、健康の為に毎月二回の練習を続けていきたいと思ひます。

(倉沢いよ子)

史跡めぐりシリーズ (2)

荒神さま

三区 福島光三郎

荒神さまの森は、下市田の中心部にあり、鎮守の森として簀え、昔から村の名所と云われ、部落に美観を添えて来た。

荒神堂は、安養寺の守護神として、凡そ今から六百年前の延久三年、三宝荒神が祀られたと云われ、お堂(社)は庶民の民間信仰のより処となっていた。

春の村祭は、荒神さまのお祭りとも云われ、郷土芸能としての獅子舞い、囃屋台が宵祭の当日には、寺を出て荒神の大門より石段を登り境内に曳きつけられた。その夜は、境内にともされた大灯笼と、ほづき提灯に照し出されて、賑やかな宵祭が行われ、本祭の日には、荒神社から裏の道を寺へ向うのが慣例とされていた。

この行事は、寛政八年からつづけられて来たが、昭和二十七年以降は、いろいろの事情から、荒神さまでの獅子舞い等は行われなく

なり、それとともに、荒神さまへの参詣者もなくなつて、時代の変遷と共に、荒神信仰も衰え、今日となっている。

では、いったい百年以前、即ち、御維新当時の荒神さまや産土さま一諏訪社、八幡社の社殿と境内はどうなっていたであろうか。

調べに依ると、上の宮(現在の萩山神社)の境内は、下の宮(荒神社)に比べ、境内は広大であり、木の鳥居こそあったが、石灯笼などは参道入口の二基のみで参道の両側に並木はあっても大木はなく、古木は入口左側に松の木があるのみであった。

社殿の諏訪・八幡さまはあっても、境内に石垣はなく、従って石段もなかったし、神殿に対する拝殿すらなく、ただお舞屋があると云った閑散とした境内風景であった。

それと比べ、荒神さまには、森樹が大木となつて、

十三本(現在は十一本)も茂りあって、緑の鎮守の森をなして居た。

大門の入口に大幟を立てる石の旗柱があり、参道は立派な三十一段もの石段で、境内の入口に赤い大鳥居が建っていた。

境内に手洗石と石灯笼が、大小四基もあり、拝殿の前に石の旗柱も左右にあり、たたき石が敷き詰められていた。

ここ荒神さまには、上の宮にない拝殿があり、舞屋につづいて、鞘堂の中に荒神の本殿が鎮座していた。

この本殿は、元禄十六年の再建築と云われ、社殿全体が朱塗りで、絢爛とした

彩色が施してあり、本殿のお扉には右側に美しい牡丹、左は勇ましい唐獅子が描かれていた。

庭の右手に二間半に七間の社務所兼会所があつて、時には村芝居もここで行われた。

荒神さまの本殿、その他境内の諸施設はすべて、村人の信仰心からの寄進で整備されていた。舞屋の板壁には、天明五年(一七八五年)から、各年代にわたる境内で行われた、地取角力の『叶大関』の奉献額が十数枚掲げられていた。

なお、境内に蚕玉さまも祀られていて、そのお祭りには、川向うの伴野は勿論、近在近郷からの参拝でにぎわい、盛大なものだったと云う。

この様に賑わった荒神さまの信仰が、現在のように衰退したのは、明治四十年八月、郷社合祀の内務省の訓令が出て、合併かどうか区内がもめにもめてからである。しかし、結局、明治四十五年合併遷宮と決まり、荒神社は大正二年、上の宮に奉遷されてしまった。

荒神さまは上の宮へ遷宮となったものの、春祭の行事となっていた。獅子舞な

どの練習、そして宵祭りも本祭りも、旧来の伝統を守り、荒神の森でつづけられた。そのうちに、荒神社は下宮へ移すべきだと云う声が高まって来たので、大正十三年一月、区内の組長会を開き、協議を重ねたところ、万場一致で荒神の森に分霊を奉祀することで、萩山神社より荒神社を分離しようとする声もおさまった。

そこで、大正十四年、新しい白木造りの社殿を造営し、下の宮である荒神の旧社へ、すさのおの命と三寶荒神を奉祀し、今日に至っているわけである。

こうしたいきさつを経て、現在下の宮に祭神が奉祀されているという事実を、知る

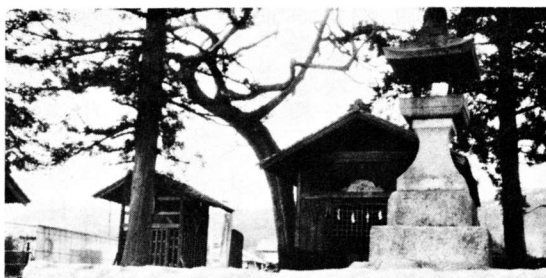
る人も少なくなってしまうた。

短歌 串原喜代枝

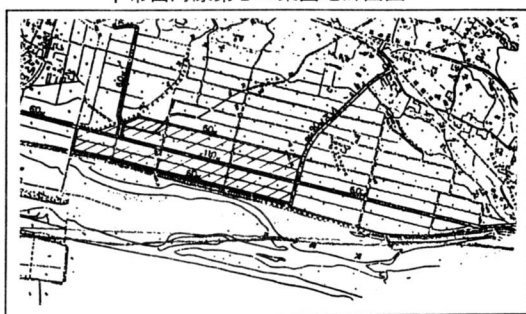
下市田短歌会の歴史は古い。敗戦後間なく同好の方々によってはじめられ、今日に至っている。下市田の作歌人口は多いが、これからはじめたいと云う人々のために、公民館では初心者むけの短歌教室も、考えてくださる予定である。

今回は次の十一首を。

白鷺はひかりとなりて翔びゆけりただにかそけきさ
らぎの空 鎌倉和女
・帰りがけに寄りたる娘は友達のくれし林檎をニツおき
中村まさ子



下市田河原第2工業団地計画図

第2工業団地予定地内個人意向調査結果
59.4.20現在

農振除外について			用地について			
反対	賛成	未定	協力できない	売る	貸地	売却の代り
3人	60人	7人	18,118㎡	94,303㎡	43,409㎡	51,713㎡
			7人	49人	17人	29人

○予定地内関係者70人 ○予定地内農地面積 161,358㎡

〔下市田河原〕

第二工業団地計画

農業地域工業導入促進事業で

下市田河原天竜川ぞい、下段に第二工業団地計画が進められており、今回その概要をお知らせします。

卒目的

1. 高森町は「緑と福祉と文化の町」を基調に、農・工・商の調和のとれた産業の発展と、活力あふれる町づくりを目指しており、工業の振興を計ることによりバランスを図る。

卒現状

昭和53年より工業団地計画の研究が進められ、第一工業団地3haが山吹河原に完成。その後第二工業団地として、下市田河原の計画が進められており、予定地20ha内の地主関係者の各戸

意向調査が終り、その結果は別表のとおりです。

又、町には工業団地推進委員会（34名）があり、導入企業の調査、用地対策、公害問題、環境問題、飯田市との関係、下市田河原全体の交換分合計画、団地造成計画等の検討を進めております。

卒農村工業導入促進事業とは

農村地域への工業の導入を積極的かつ計画的に促進するとともに、農業従事者が、その希望及び能力に従ってその導入される工業に就業することを促進するための事業であり、この事業と相まって農業構造の改善促進、農業と工業の均衡ある発展を目的としている。

又、この事業指定を受け
第二工業団地推進委員会
委員長 上沼芳計

教えてください、教えます。

せき止めに

二区 松島 清子

雪の下 適量
氷砂糖 適量

小さめの土鍋に雪の下と氷砂糖を入れ、多めの水を加えて氷砂糖がとけるまで煎じる。それを一日に数回飲むとせき止めに効果がある。

あると言います。雪の下は日影干しにして用意しておくくと便利です。
今年の冬はとりわけ長く厳しかっただけに、カゼひきも多かったようです。まだセキの出ている方もいらっしゃるでしょう。そんな方におすすめしたいと思ひます。

・ほのかなる希望いだきし宝くじ我手にふれずやみに消えたり
北沢 秀美

・満たされぬが三日ほどあり雪の町に七割引きのコートを買ひぬ
仲平 直美

・凍て土を掘りて起せば根深葱折れて強き香雪の上に漂ふ
田戸 純市

・メッセージ乗せし風船障害者の書きし便りも大空を飛ぶ
木下 しもゑ

・掃き清む薔薇園の土も凍てつきて落葉の匂ひ著くたつ朝
篠田 富士

・牛臭き吾手に気付く会合のとなりに気遣いそつとして
小川 アキ子

・せかせかと疲れて歩む歩み癖柿の花散る坂のぼりゆく
大石 ふみえ

・天竜の波濤を染めて昇る日を年あらたまるよろこびとする
竹内 通雄

・白鳥の羽毛さざなみにただようを拾ひて帰るぬ記念とやせむ
平沢 忍夫



くちなしの実で染色

五区 北林八重子

くちなしの実 三個位
なべにたっぷりの湯を用
意し、くちなしの実をガーゼに包んで入れ、色を煮出す。

適当な色が出たらくちなしの実をとり出し、染めようとする物を入れる。きれいな黄色に染まります。特に白い物がうす汚れた感じになった時、お試し下さい。まるで再生したかのようになります。
また、このくちなしの実は栗を甘く含め煮するとき、栗が黄色に煮あがります。

萩山神社ものがたり(2)

— お祀りしてある神さまは —

伊 谷 唯 介

神事の中から



前回の「萩山神社ものがたり」で「萩山神社」と云う社名について明治十五年の神明帳に始めて「萩山神社」と言う名が出てくると書いたが、その後の調べで明治六年八月十八日永山権令宛に出した書類に「萩山社領云々」の文字あり、その頃既に「萩山神社」と言っていたのではあるまいか。

たとのみこと」とも申し上げる神様であって、その本社は我国最古の神社の一つであり信濃国一の宮の諏訪大社である。

ここで少し諏訪大社のことについて触れておく。

諏訪大社由緒略誌によると「御祭神の大神は当初草莽を拓き、猛獣を狩り、洪水を治め暴風を防ぎ、兇暴を掃蕩し、民衆を薫化善導して、その堵に安んぜしめられ、(中略)その妃八坂刀売神(やさかとめのかみ)は土地を拓き、農桑機織の業を指導し給うた(下略)」と誌されていて要するに諏訪盆地発展の基礎を開かれた神様である。これを前記のように松岡氏四代目の帯刀が今から約八〇〇年前に

さて、当神社にはどんな神様をお祀りしてあるか。まず第一に正面の中央にお諏訪さま、そして左右両側に八幡さまと荒神さまである。

。諏訪社(お諏訪さま)

御祭神は建御名方神(たけみなかたのかみ)別名を建御名方富命(たけみなか

勸請してきて、この郷の産土様として、松岡氏の武運長久と領内の平穏を祈念したのである。

諏訪神社系統の分社は全国に五、四九二社あり、毎年全国大会を本社に於て執行し、北は北海道、南は九州と全国からその崇敬者一千有余名が参集して全国大会を開催し御神徳の高揚に務めている。当社からも参加することはもちろんである。

。八幡社(八幡さま)

八幡社と名の付く神社は全国に約二万社ほどあり、その御祭神も異なるものがあるようであるが、この八幡社の御祭神は菅田別命



し し 舞

(市田駅前にて)

(ほんだわけのみこと) 即ち応神天皇である。

さて、なぜ、いつ頃この八幡社が祀られたのか不詳であるが、嘉禎三年(一二三七)頃、松岡氏は鎌倉幕府に奉仕し、例年弓初めの儀式に一族から優れた勇士を送り、連年榮譽をになっていた等、属々鎌倉に参向していたので、源氏の崇敬の厚かった鎌倉の八幡宮を勧請したものであろう。

なお、鎌倉の八幡宮は後冷泉天皇の康平六年(一一〇六三)源頼義が山城の石清水八幡宮を勧請したものとされている。

。荒神社(荒神さま)

萩山神社由緒録には「御

祭神は素盞鳴命(すさのおのみこと)、古くから下市田の郷に祀られた社で云々

とあるだけであるが、その御祭神・起源・創建等は年代・経過等については異論もあり、多少の出入れなどもあったようであるが、由緒録にあるように古くから下市田の郷に祀られていたことは事実である。

ただ、明治四十年八月内務省訓令(又は明治四十年五月知事訓令)によって大正二年現在地へ移宮合祀したものであり、大正十四年氏子の総意により下宮社跡地の森はそのままとし、荒神社御分霊を奉祀したのである。

御祭神は流行病(はやりやまい)の神と言われている。

。末社(枝宮)

拝殿の向って左方に末社があるが、その創立、由緒など詳しいことは不明である。祭祀してある主な社名を列記すれば、

御頭社(建御名方命)
社護社(社宮神)
子安社(木花開耶姫命)
御嶽社

(伊雑皇六神

農業の神)

その他 略

以上

昭和五十九甲子年春季祭典

萩山神社 献詠歌集

なにしおう祭囃子の響き渡り魅入れる村人獅子舞かこむ
白鳥の翔い来し事も吉兆となして宮居に獅子舞いつづく
旅に住む孫に見せし獅子ひきの舞はなやげる萩山まつり
獅子引きの稚児に添い居る鬼の面威丈になりて人等避けさす
ゆくりなく白鳥すみつき雪のこりおそい春を待つ祭りを迎う
春祭り百人たちの幸祈る宮古の森にひびくお囃子
寒さにも克ちてけいこにはげみたる真籠りてまつりはな咲く
度しき厳しき宮居神前に心正してきょうを齋う
春寒き稽古仕上げの日の間近宮祭りの神儀今もかわらじ

勝又 恒一
鎌倉 和女
中村まさ子
北沢 歌美
伊藤 智恵
岡本 とよ
唐沢 正二
竹内 道雄
大石 ふみえ

随想 春よこい

一 区 北 沢 安 子

暑さ寒さも彼岸までと言いますが、今年ばかりはそうはいかない様で、子供達といっしょに「春よこい、早くこい」と大きな声を出して、今にも雪が落ちて来そうな空を、恨めしそうに見あげているこの頃です。

一月の中頃から、一区の若妻会やママさんバレーの仲間といっしょに、着物の着付けを習い始め、もうすぐ十二回の終了式なのです。習ったからと言って、すっかりと着こなせるほどではないのですが、下手なりにどこかに着て行きたくて、何んとなく春が待ちどししくてならないのです。

子供達が寝しずまった頃着物だ帯だと引っぱり出して来て三十分程、悪戦苦闘の末、「できたあ」と思わず一言。主人は、何んとも呆れ顔で、「このぶんだと出かけるまでには、一時間以上かかるねエ」のニヤニヤ。何はともあれ、楽しいのです。

考えてみれば、長女が生

まれてから足掛け八年。家事に育児にと、ただその日暮らしに追われ、久しく、装うことの喜びなどともすれば忘れてしました。特に、着物となりま

すと着る機会も少なく、娘時代に母が折りに触れ、一枚づつ用意してくれたものですが、さてどんな着物があつたのか、一度も袖を通さないものばかり。着付けの先生にもしかられましたが、私も一様は女。やはり着物に対するあこがれはあります。

ましてや、二人の娘がおり、いずれは、私もまた娘達の為に一枚ずつそろえてやり、時には、帯を結んでやりたいと思います。

着付け教室は、いろんな意味でほんとにありがたいと思っています。夜七時から九時までの二時間、とてもない冗談も出ますが、帯を持ったらみんな真剣そのもの。仕上がった頃には汗ばむほどです。

「お母さん、きもの一人で着れないの？」と娘に言われ、しょんぼりしていた

私ですが、「大きくなったら、帯結んであげるからね」と声をかけて、さあそれまでの間、習ったことを忘れないように、やはり着物を時々ひっぱり出して練習しようとの心の中でつぶやいています。

五 区 林 兵 一

毎朝氷点下五、六度という真冬の気温に、春は名をみの言葉が実感である。こんな異常気象はこの冬だけにしてもらいたいものである。あまり寒いのも困りものですが、ウィンターシーズンに入って、もう一つ憂うつなことがある。

現在、社会的にも問題化しているスパイクタイヤによる粉塵公害である。

ここ下市田にも交通量の多い一五三号線があり、天気の良い日等、連日モウモウたる砂埃りに沿道のみなさんの苦勞も、並々ならぬものがあるだろうとお察しする。

このスパイクタイヤなるものが普及し始めて、周りの車が殆んど履いているのに、チャリンチャリンとチエーンを付けている車は、私の車の他何台もないのに

久かたに春陽に匂える夜具まとい近づく祭りのうらら日希う
獅子舞は稚びし手振りゆるゆると若草萌える道を練りゆく
白鳥の羽毛さざなみにただようを拾い帰らぬ記念とやせむ
幽けくも命ひしめくものの種肌を守りて春の土耕つ
幼らの曳く獅子練りまう萩山のまつり保たむと若人起てり
~~~~~  
気付き、流行から乗り遅れてはならじと、早速手に入れた。これで手に息を吹きかけての、わずらわしいチエーン掛けの作業から逃れたと、一人うなづいていた。四年程前のことだった。この年も雪が多く寒い冬でしたが、さすがスパイクの威力と言える日が何日あったらうか。それにあのゴウゴウという騒音と、乗りごこちの悪さが肌に合わず、スパイクを脱いでしまった。次の年は一週間。たまたま購入した車が、雪道に強いと言われる前輪駆動車のせいもあって、以後スパイクタイヤは、新品同様で倉庫に眠ったままなのである。

## 萩山神社 予算・決算書

### < 昭和59年度予算 >

| 歳 入               | 歳 出               |
|-------------------|-------------------|
| 科 目               | 科 目               |
| 予 算               | 予 算               |
| 1.神饌幣帛料 3,500     | 1.祭 典 費 212,700   |
| 2.財 産 収 入 6,000   | 2.神符守札調整費 114,000 |
| 3.社 入 金 1,635,000 | 3.給 与 242,000     |
| 4.寄 付 金           | 4.社 務 費 199,750   |
| 5.繰 越 金 26,010    | 5.管 理 費 147,590   |
| 6.雑 収 入           | 6.負担金寄付金 188,850  |
| 経常部合計 1,610,510   | 7.積 立 金           |
|                   | 8.予 備 費 115,620   |
|                   | 9.保存会 育成費 450,000 |
|                   | 経常部合計 1,670,510   |

### < 昭和58年度決算 >

| 歳 入               | 歳 出               |
|-------------------|-------------------|
| 科 目               | 科 目               |
| 決 算               | 決 算               |
| 1.神饌幣帛料 3,500     | 1.祭 典 費 164,496   |
| 2.財 産 収 入 3,631   | 2.神符守札調整費 114,000 |
| 3.社 入 金 1,703,226 | 3.給 与 213,725     |
| 4.寄 付 金 0         | 4.社 務 費 205,449   |
| 5.繰 越 金 20,822    | 5.管 理 費 245,059   |
| 6.雑 収 入 7,150     | 6.負担金寄付金 156,850  |
| 経常部合計 1,738,329   | 7.積 立 金 0         |
| 歳入総額 1,738,329    | 8.予 備 費 62,740    |
| 歳出総額 1,612,319    | 9.保存会 育成費 450,000 |
| 差引残額 126,010      | 経常部合計 1,612,319   |

塩 沢 秀 子  
伊 谷 富 貴 子  
平 沢 忍 夫  
串 原 喜 代 枝  
田 戸 純 市

(次頁上段へ)



車で各地を走り廻るとか、自宅が山道を通り抜けなければならぬ人などはとも角、シーズン中、何日か必要なだけで、あとは道路を削り取り、粉塵を撒き散らすスパイクタイヤが、果してこの地方にとって絶対欠かせないものなのだろうか。以前はチェーンがほとんどだったのである。今日も又削り取られた道路舗装のため、片側通行で停車している脇を、対抗車のほとんどが、スパイクの音を高らかに鳴らして通り過ぎて行く。空気のきれいな信州、さわやかな信州のイメージは、この冬の季節は無理なのだろうか。

## 二区 上沼千津子

「暑さ寒さも、彼岸まで」と昔から言われますが、今年の彼岸は、二十数センチの雪に見舞われ、いつたい春は何時になったらおとずれるのか心配になります。それでも子供達の卒業、入学と、私も三人の子供にとすると追われながら、少しばかりの田畑と、水引芸の仕事をしています。主人は勤めですので、私の家は休日農業です。楽しみの日曜日を、家族総出で、ハウス作業や野菜の植付けをします。それは大変ですが予定の仕事が出来た日は、とても嬉しく思います。欲ばって多種多様な毎日をおくって居ますが、何も解らない野菜作りも一年生から始めました。全て農協の指導員の方にお世話になって

いるわけですが、勉強不足の上、未経験なものですから、それはとても勘定にはあいません。主人は、「働いただけ体を鍛えたと思えば良い」と慰めてくれます。

水引芸の方も、とても楽しい仕事です。それはやはり、特種なものですから

少人数ですが皆で協力して作った品物を出荷する時は、どこかで、私達の手掛けた結納品で、固く結びられる二人が幸甚多かれと祈ります。

## 白鳥の渡来に思う

山上信雄

ともすると暗いニュースの多い今頃ですが、今年の異常気象に負けないで、一日も早く、明るい春到来を待つばかりです。

二月九日、下市田河原に飛来した白鳥が、餌付けにより、一日中坂牧さん前の田んぼに居る様になり、ほんとうに嬉しかった。始めは、もう何処かへ行ってしまうのではないかと心配で飛び立つと、その後をトラックで追いかけてたりしました。そうして夜、例の中瀬に居るのを確認してから安心して寝ました。何しろこんな南まで来れば、白鳥の食べる物は何処にもあるの、その水藻や草より美味しい物を与えねばと思ひ、色々試してみました。切ったりんごの茶がらぶしや、柿の熟したの好んで食べたが、苺やバナナは思った程では無かった。坂牧さんと、早朝田んぼに入り、餌の食べ残しを片付けて、又新しい餌を置き、そして凍った糞を始末する日課でした。その後ひどい寒さが去

り、雨が降って大地が解けてからは、例の餌場には、あまり来なくなり、田んぼの中の稲架の跡がわかるらしくて、一列に並んで雨だまりの中をビチャビチャと食べているのを見て、やはり水の中に餌をやった方がよいと思ひ、一号池の東側の水の中へ餌を置いてみた

らんだりました。白鳥は池に来ると、先づ餌を食べ、そして羽根を広げたり、水にくぐったりしますが、一羽がすると、皆それと同じ行動をします。飛び立つ時も、きまった順序で合図します。利こうな鳥です。私を覚えるのに、トラックごと此のやせた顔を覚えてくれたが、平沢さんは、カメラと三脚に黒い服でしたので、或る雨の日カッパと傘で行ったら、ひどく知らわれて、首を立て警戒して近寄らなかつた。この鳥が、なんでこの里へ来たのかと思つたが、やはり私と同じで、この天竜川と萩の里がよくて、居たいらしい。私も上郷の生家を弟に譲って此処へ来て三十余年になります。水石や野鳥と河原を、自分の庭の様に居ります。此の里は、夏の夜ともなれば蛍が飛びかい、冬には白鳥の里となると言う素晴らしい萩の里を、子供達によく見て育って欲しい。将来此の地を離れて他処へ行っても此の里を誇りに思つてほしい。

今度飛来した六羽の内、四羽は、此の里に住民登録してくれた訳であります

## 編集後記

年回二回発行の予定で始まった、下市田区報「萩の郷」が、区民皆様の好評を得まして、第二号の発行をすることになりました。

第一号、第二号発行に際し、投稿いただいた方々に対し、感謝申しあげます。

この区報は、区の行政を始め、区内の出来ごと、また一般的なご意見など、広く取り入れ、充実した区報として、区内皆様方に喜ばれるものになりたい、またコミュニティを含めた、ふれあいの区報にしたいと、編集委員は努力して参りますので、どうぞ今後共ご協力をお願いいたします。

なお、子供さんたちの原稿は、次号にまわしました。

(小島 正美)

